

< 資料2 >



[ホーム](#) > [まちづくり・防災](#) > [防災](#) > [防災対策](#) > 放射性物質拡散シミュレーション(県内全域)の結果について

更新日:2014年4月24日

放射性物質拡散シミュレーション(県内全域)の結果について

本県の原子力災害対策の見直しに活用するため、福井県内の原子力発電所で福島第一原発並みの事故が発生した場合に、前提条件を安全側に配慮し、県内全621メッシュ(1辺4km)において起こりうる最大の被ばく線量を推計しました。

実施結果(概要)

1.推計した被ばく線量

人体への被ばくの影響を示す次の2つの指標について、いずれも7日間の積算被ばく線量の年間最大値を推計しました。

(1)実効線量(全身の被ばく線量)	<p>大気中の放射性物質及び地表に沈着した放射性物質の双方による全身に対する外部被ばくと内部被ばくの影響を示す指標。</p> <p>IAEA(国際原子力機関)の基準では、7日間で100mSv超の場合に避難等を要する成人について推計。</p>
(2)甲状腺等価線量(甲状腺の被ばく線量)	<p>大気中の放射性物質(放射性ヨウ素)を吸入することによる甲状腺に対する内部被ばくの影響を示す指標。</p> <p>IAEA(国際原子力機関)の基準では、7日間で50mSv超の場合に安定ヨウ素剤の予防服用を要する。被ばくの影響で甲状腺がんを発症する確率が大人より高いとされている小児(1歳児)について推計。</p>

2.市町別最大被ばく線量[※](県内41市町中)

(1)実効線量がIAEAの基準(100mSv)を超える市町	なし
(2)甲状腺等価線量がIAEAの基準(50mSv)を超える市町	31市町

注)市役所、町役場の所在メッシュの最大被ばく線量

3.市町別基準超過メッシュ数(県内621メッシュ中)

(1)実効線量がIAEAの基準(100mSv)を超えるメッシュ	なし
---------------------------------	----

(2)甲状腺等価線量がIAEAの基準(50mSv)を超えるメッシュ

352メッシュ(38市町)

今後の対応

1.国への働きかけ

平成26年3月28日に関西広域連合を通じてプルーム通過時の被ばくを避けるための防護措置を実施する地域(PPA)対策の早期導入を中心とする原子力防災対策の申し入れを改めて行いましたが、本シミュレーション結果を踏まえ、国(原子力規制委員会等)に対し、PPAの早期検討と原子力災害対策指針への反映、対策の具体化を働きかけていきます。

2.地域防災計画(原子力等防災計画)の改定

国によるPPAの検討結果を踏まえて、本県として取るべき対策を検討し、地域防災計画(原子力等防災計画)を改定します。

詳細は関連資料「[放射性物質拡散シミュレーション\(県内全域\)の結果について](#)」(PDF:673KB)を参照してください。

お問い合わせ

部署名:企画県民部防災企画局広域企画室広域企画班

電話:078-362-9806

FAX:078-362-9839

Eメール:koikikikaku@pref.hyogo.lg.jp